

企業観察

東レ (3402)

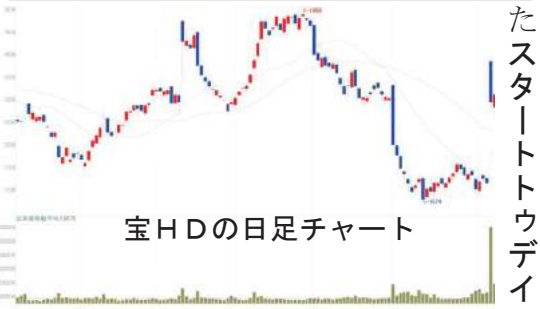
M&A効果引き出し急ぐ

東レ(3402)は19年3月期通期の連結売上高を2兆4000億円から2兆4500(前期比11.1%増)へ引き上げたが、経常利益1600億円(前期比5.1%増)と期初予想を据え置いた。繊維は自動車関連など産業用が堅調、エアバッグや紙おむつ向け新設備稼働や冬物衣料向け需要前倒し発生で計画を超過している。機能化成品もABS・PPS樹脂の拡販が進み、リチウムイオン二次電池向けバッテリーセパレーターフィルムを順次増産、通期計画は最低ラインと判断される。2Q以降の課題は増益確保に向

炭素繊維の提案力と競争力強化

けた収益力強化で、コストダウンと製品価格の値上げ、付加価値品取扱いを強めるとともに「M&A効果の引き出しを急ぐ」(会社側)考え。7月に買収したオランダの炭素繊維メーカーTenCateは生産効率の高い熱可塑性複合材料を扱い、高機能の熱硬化性複合材料との融合により提案力が増し、コスト競争力強化も可能になる。炭素繊維は航空機向けサプライチエーンの在庫調整が完了し、増産を予定する米ボーイング向けに供給体制を強化したところで、TenCateとの連携次第では収益上振れも期待できる状況だ。

7日、宝ホールディングス(2531)と東京ドーム(9681)が急反発。前日に日経平均の定期入れ替えが発表されたが、宝HDとドームは除外候補にあがっており、年初来安値圏に売り込まれていたことから、採用継続を受けて買い戻しが優勢になった。一方で不採用となっ



宝HD、ドーム急反発

1Q 88%営業増益を好感

7日、anfacの初値公開価格56%上回る。actorry(7035)が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格2570円を56%上回る4010円で初値が生まれた。同社は主にモバイル広告を掲載した無料スマートフォンアプリの提供、IoT技術を導入したスマートホ

(3092)や任天堂(7974)は大幅安に売られた。

「OSTEL」の共同運営を行う。

マザーズに分があり

8月相場は下旬から8連騰した株式市場。9月に入って下げ続けており日経平均株価は6連敗となっています。9月は苦月というパフォーマンスの悪い月であり、決算対策売りに上値を押さえられてしまう傾向があるようです。本年5月以降は2万3000円近辺が重く、下値は概ね2万2000円割れと上下幅約1000円の往来相場が続いています。先週末は2万2100円台まで売られましたが、ここから下は買い場ということになりましょうか？

ここにきてマザーズ市場がようやく立ち上がりだしました。6カ月連続月足陰線という厳しい下落が続いていましたが、8月相場で下髭の陽線が立ち、日足でも25日線上で頑張っています。信用残が3兆円割れとなり、ある程度の投げが一巡しだしたものと思われま。動意付いた小型株の短期投資に分がありそうです。 日々勇太郎



転ばぬ先のテクニカル

半導体関連幅広く売り

週末7日、東京エレクトロン(8035)が3日続落で年初来安値を更新したほか、SCREENホールディングス(7735)が東証1部値下がり率トップになるなど半導体関連が幅広く売られた。米マイクロソンのCFDがチップ価格の下落を示

し、ニューヨーク市場で半導体関連が値を下げたことから、この地合いを引き継ぐ動きとなった。7日、GASchnologie(3491)が大幅延伸。レオス・キヤピタルワークスが8月31日現在で同社株式の5.68%を取得したことが判明し、需給への思惑から買いを集めた。

今週の動意銘柄

GAテク大量保有

2万3000円の壁破る

NYダウは年内に高値挑戦へ

米国市場でアマゾン株が2000ドルを突破し、ナスダック市場が史上最高値を更新した。ナスダック市場では、アルファベット株、アップル株、マイクロソフト株等が新高値を更新している。NYダウは6月27日の安値2万4117ドルから9月29日まで約2カ月で2000ドル以上急騰した。

これは1月26日の史上最高値からの調整相場において3月23日の2万3533ドルの安値からのもどり率が84%となり、年内にも高値に挑戦する可能性が出てきた。その前振れとしてナスダック市場およびS&P500指数が最高値を更新している。

また、株式市場に影響が大きい国際為替市場国際商品市場、国際債券市場においても現在は三市場共に堅調に推移していることもNY市場にとって、深押しすることなく推移するものと期待する。ただし、BRICs各国の株式市場

が再度下落基調に変化してきたので、今後の株価動向を注意する必要がある。

日経平均は、戻りの高値になっている2万3000円の壁が大きく重なっているが、5月21日の2万3002円を終値で上回ることが出来れば、5月から4カ月間続いている2万2000円から2万3000円の保ち合いを上に突き破ることが期待される。

相場展望

その条件としてはNYダウが史上最高値に挑戦する動きが出てくることで、抜け出す可能性は大きいと見ている。

新・劇場型ホラー・アトラクション

「ホテル・アルバート」を初公開!

ユニバーサル・サプライズ・ハロウィーン2018

企業レター



中条あやみさんが煌びやかな
“ドレスアップ仮装”で登場

モデルを務め、女優としても人気沸騰中、高校生の時には「ユニバーサル・スタジオ・ジャパ」に週5で通っていた」という中条あやみさんが、煌びやかな「ドレスアップ仮装」で駆けつ

USJ

ユニバーサル・スタジオ・ジャパは、シーズナル・イベント「ユニバーサル・サプライズ・ハロウィーン2018」の9月7日から9月7日までのグランドオープンに先駆け、6日正午ごろに、「

「ハロウィーン新時代」をリードする、新しいハロウィーン

の楽しみ方「大人ハロウィーン」を体現する期間限定の新アトラクション「ホテル・アルバート」を初公開した。

開幕セレモニーには、雑誌「C

けた。新・劇場型ホラー・アトラクション「ホテル・アルバート」や新体感ホラー・メイブ「サイレンス・イン・ザ・ゴーストシップ」をいち早く体験した中条さんは、美しさとホラーが融合する全く新しいハロウィーンの魅力について、集まった報道陣の前にその感想を語った。会場には、「CanCam」のigt girl(公式インフルエンサー)たちが招待ゲスト50名も集合してグラスを片手に乾杯、ハロウィーン新時代の開幕を祝った。

この日は朝から夜まで家族でハチャメチャできる「こわかわハロウィーン」の「フェスタ・デ・パレード」や新しいゲスト参加型ゾンビ・モブ「ゾンビ・デ・ダンス」も初公開した。

潮流

大幅反発のタイミング近い

個人弱気でも外国人は買い越し



日経平均は8月30日に2万3032円を付けた後、下落が続いている。多くの投資家は5月・6月・7月と同様に2万3000円が天井となり、2万2000円割れまで調整が続くと考えているのだろう。しかし、今回はそこまでの下げはせず、大幅反発するタイミングが近づいている。

9月14日のメジャーSQまでには再度上昇基調を強める動きになるだろう。次の上昇を仕掛ける投資家はやはり海外ヘッジファンドだ。8月第5週(8月27日～8月31日)の日経平均先物とTOPIX先物の投資部門別売買動向によると、海外投資家(外国人)は2週連続で買い越した。日経平均先物とTOPIX先物を合算した買越額は4510億円で、前の週の1123億円から拡大した。現物株(東京・名古屋2市場、1部、2部と新興企業向け市場の合計)との合算では4994億円の買い越しだ。外国人投資家は9月からの下げ局面でも買いを入れているだろう。個人投資家が弱気になって売りを拡大しているが、外国人投資家は225先物など株価指数先物に買いを入れている。

8月31日申し込み時点の信用取引の買い残高(東京・名古屋2市場、制度信用と一般信用の

合計)は2兆9328億円となり、今年最低の水準を更新した。信用買いを入れていた個人投資家が、株式相場の上昇を受けて利益を確定するため、持ち高を減らしたとみられる。また、9月6日時点の空売り比率は

44.47%まで高まっており、投資家の弱気心理を裏付けている。東証1部市場の25日騰落レシオは83%と売られ過ぎの水準に近い。このような状況からヘッジファンドといった投機筋がまとまった買いを225先物に入れると、売り方の買い戻しに加わり、日経平均は1日で300円以上の大幅上昇となることが予想される。

また、直近の米国名目GDPはなんと7.6%増と強烈な成長となっている。減税効果は大きいものの、1990年代の高成長から更に経済規模が拡大して、この高い成長率なのである。2000年の名目GDPの規模から2倍近くも拡大して、その水準から7%成長なのだ。米国株が強いのは、こうした内容から考えても、ある意味当然といえる。日本も大規模なインフラ投資と減税が求められる。

潮流銘柄はラクス(3923)、グレイテクノロジー(6541)、リネットJPN(3556)。



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

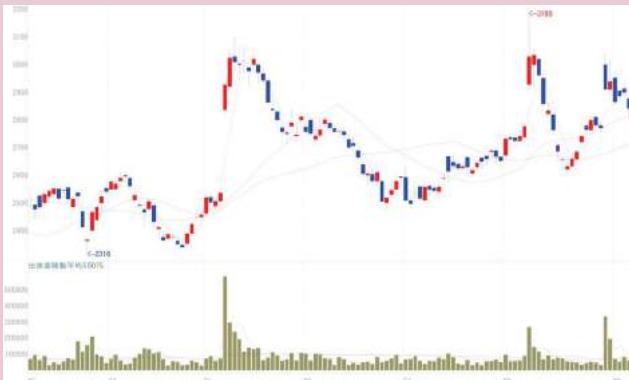
先物買いに買戻し加わる

ラクスの日足チャート



チャート から読む 騰落銘柄

エレコム (6750)



8月20日の2609円底に上昇。25日線の2800円台前半までの調整はあるかも知れないが、貸借倍率0.79倍の好き需給からも8月30日の3040円抜けから8月8日高値3185円抜けに期待。

カプコン (9697)



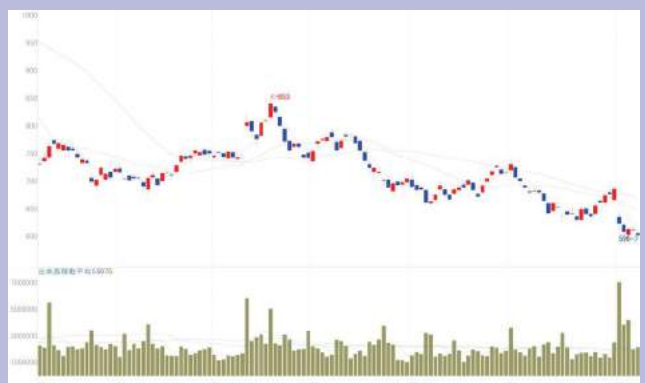
「モンスターハンター：ワールド」中国販売中止を嫌気し急落のあと、7月11日安値2350円と8月20日安値2377円でW底を形成、順調に出直る。25日線を回復し日足が再び陽転、本格反騰へ。

三井金属 (5706)



3000円の維持が難しくなる。この水準を割り込めば2000円トビ台辺りまで下値のフシはない。極薄銅箔「Micro Thin」のHDI向け販売数量の減少から先行きに対する不透明感が高まる。

フジクラ (5803)

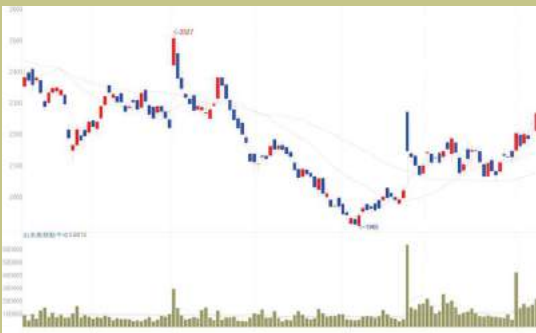


一部製品の不適切事案発覚受け急落、年初来安値を割り込み、再び下値模索へ。日足陽転ならず、月足は陰転の方向で大勢下降転換。下値メドは累計出来高の集中する抵抗帯の500円近辺か。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



タムロン (7740)

通期20%営業増益見込む

タムロン(7740)は2000円トビ台まで下落した後、7月25日に付けた高値2275円を抜ければ、5月1日の年初来高値2527円を目指す展開を期待したい。一眼レフ用交換レンズの世界のメーカーで、小型デジタルカメラ用などでも実績を有している。今年4月に発売した超望遠ズームレンズ、今年5月に発売した同社初となる35ミリフルサイズミラーレス一眼カメラ対応大口径標準ズームレンズが寄与し、18年12月期は第2四半期累計(1~6月)の連結営業利益で19億5900万円(前年同期比66.4%増)と大幅な増益を計上、通期予想の51億円(前期比20.1%増)達成へ向け順調に推移している。ドローン用レンズの拡大にも期待は大きい。(と)

ドローン用レンズ拡大に期待



理想科学工業 (6413)

1Q66%営業増益で上振れへ

理想科学工業(6413)は株式分割を考慮した実質最高値を更新、青天井相場を一段高に向っていった。高速カラープリンター「オルフィス」を中心としたインクジェットが国内外で伸び、19年3月期第1四半期は連結営業利益13億9500万円(前年同期比66.0%増)と利益が急拡大。第2四半期の営業利益を16億円から18億円(同29.8%増)、通期は38億円40億円(前期比3.3%増)に引き上げた。ただ、2Q修正計画に対する1Qの進捗率は77.5%に達し、あくまで最低ライン。下期偏重型の事業特性を考慮すれば、おのずと通期計画は大幅な上振れ期待が高まる。予想を上回るピッチで収益回復に加え、31日現在の信用倍率は0.07倍と大幅な売り超過で、買戻しも株価を押し上げていく。(き)

高速カラープリンター伸びる

※チャートは日足

日本水産は上値追う

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

9月の初週は近畿直撃の大型台風21号が荒れ狂う中、相場は静かな動きとなっていました。3日に米国株式がレイバーデー

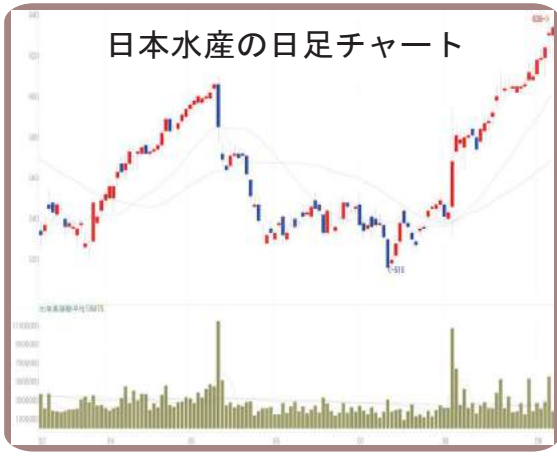
で休場となつたこともあつて、手かがり難のため様子見状態となり、台風が過ぎ去った翌日の5日は関西国際空港の甚大な被害から資生堂などのインバウンド関連や南海電鉄などの鉄道株が下げました。ただ、そうした中でも整理が進み下値に対する抵抗力がでてきた銘柄もみられるように、週明け以降は戻りが期待できる動きも出ています。日

アンジェスは値固めへ

動きは鈍いですが、ここからの下げは買いのタイミングを図る局面と見ています。自動車株はNAFTAでメキシコとは合意したのですが、カナダが合意に至らなかったことが影響しました。特にトヨタはカナダで高級車の生産をしているだけに下げが大きくまりました。筆者はカナダと9月中まで合意に至るとみており、過度に自動車株を悲観的にみないことにしています。当欄一貫推奨銘柄のアンジェス(4563)は、この低迷相場の中でも材料株の物色が続く環境でしたので、引き続き上値を迫りましたが、売りものに押される場面も目立ちました。恐らく、目先は調整局面に入るものと思われそうですので、500円台を一時的に割れても値固めの動きになるものとみています。日本水産(1332)が上値をとりはじめました。5月の高値を抜き、昨年12月高値628円を抜けば、650円辺りまで売りものが出なくなりそうですので、上げ幅を拡大していくものとみられます。日本水産の上値追いが続けばマルハニチロ(1

経平均は8月24日に開いた2万2602円のマドをほぼ閉めました。前回紹介の自動車株も

333)も出遅れ感が高まりそうです。今回の狙いはこれらのほかではSBIホールディングス(8473)。余談ですが、スタートウディ(3092)が調整一巡から戻す動きでした。9月中旬に材料を出すと予告するような前沢社長の発言は問題があります。株式しか資産がないためにこのところの下げで資産が目減りが目立っていましたので、前沢社長の焦りがそういう発言をさせたのでしょ。私。今回は今回の動きを冷やかに見ていきます。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!



高性能な端末の開
発では中国メーカ
ーが抜きんでいる
こと。日本メーカ
ーにはもう少し頑
張ってほしい。



「安価でそこそこ性能が良い」端末で十分と考
えているだろう。
月額料金といえは菅官房長官の「携帯電話料金は4割下げられる余地がある」という発言が話題となった。基地局整備のコストを考えれば、そんなに値下げできるのかは疑問。ただ、オプションプランで複雑化した現状が少しばかりでも良い方向に向かうことは良いこと。むしろ問題は安く高性能な端末の開発は中国メーカ
ーが抜きんでいること。日本メーカ
ーにはもう少し頑
張ってほしい。

星野三太郎の株街往来

～高性能なスマホ～

今年もアップルの新型 iPhone 発表会の季節になった。海外通信社によれば会社側は9月12日に本社のあるカリフォルニア州クパチーノで開催すると発表したそうだ。知人は新型が発売される度に機種変更しており、真つ先に触らせて貰っている。高性能に羨ましく思ったりもするが、昨年



New product

イトアンド

ヤマザキ×大阪王将

「ふんわり包(餃子味)大阪王将監修」新発売



「ふんわり包(餃子味)大阪王将監修」

イトアンド(2882)は山崎製パン(2212)の人気惣菜パン「ふんわり包シリーズ」の新品「ふんわり包(餃子味)大阪王将監修」を監修し、9月1日から全国で新発売した。

「ふんわり包(餃子味)大阪王将監修」は、山崎製パン独自の発酵技術によって熟成させた生地、「大阪王将」監修の餃子の具をたっぷり包み、ふんわりと蒸し上げた。餃子の具は、豚肉、玉ねぎ、キャベツを使用し、シャキシャキとした食感に仕上げるとともに、しょうゆベースにニンニクを利かせた濃厚でコクのある味わいが特徴。電子レンジで温める食べ方もおすすめ。全国のスーパーなどのヤマザキ製品の取り扱い店で販売中。

グルメ杵屋

初秋のおすすめ商品

おらが蕎麦、そじ坊などで期間限定販売



グルメ杵屋(9850)は「初秋のおすすめ」として「おらが蕎麦」、「そじ坊」などの店舗で期間限定商品の販売を行っている。

「おらが蕎麦」では上品な甘さとクセのないまろやかな脂が美味しいイタリア産長期肥育豚ドルチェポルコを使用した

「ローストポーク丼定食」(税抜908円)と「舞茸とさつま芋のばら天ぶっかけそば」(同602円)を発売。

「そじ坊」、「そば野」、「結月庵」の3店では「サーモンいくらご飯定食」(同1000円)と「サーモン塩麴漬けご飯定食」(同871円)、「きのこみぞれそば定食」(同889円、単品788円)、大海老と舞茸の天おろしそば定食」(同963円)、単品862円)をそれぞれ発売している。

敏腕先物トレーダー

ハチロクの裏話

ボックス相場の下値探し

仕掛け的な売りに引き続き注意

今年には本当に天災の多い年である。筆者の住んでる関西では地震や豪雨、そして今回の台風と今まで体験したことのない規模の事が次々と起こった。そして、6日には北海道でM7の大地震。天災大国日本であることは十分認識して国や自治体は防衛策を取ってきているが、自然はいつもそれを上回る規模で襲ってくる。

確かに台風に関しては過去最大級の規模であったが、事前の警告のお陰で死者数は少なかったようにも思われる。台風より前に6月18日に大阪は大地震を経験しており、災害に対して敏感になっていてそれが自己防衛をとったところであろう。天災は忘れたころにやってくる。とよく言われる。でも関西では南海トラフ地震は今後30年に80%の確率で起こると言われている。常に天災は起こるものとしてそれぞれが意識することが被害を抑える重要な課題であろう。

相場は前回に記載した窓(2万2682円39銭)と埋めたため、一旦上昇トレンドは終了し下値探りの展開と見られている。抵抗ラインと見られていた25日線や200日線もあっさり割り込み、ボックス相場の下値探しの状態であろう。また、この下落過程で2万2570円52銭(ハチロク)ある。

35円34銭、2万241円89銭の2空を形成。窓を開けての下落は売り圧力の強さを示しており、海外法で日本を買っていた海外投資家が売った可能性は高い。下値切り上げ型の抵抗ラインは2万2100円処、割れてくると2万2000円の大台が意識される。ボリンジャーバンドの▼2σ(2万1920円処)は強い支持線となる。上値は窓埋めの2万2600円処、転換線の2万2685円が抵抗ラインとなる。

今週はメジャーSQ週である。メジャーSQ週は荒れやすいので注意は必要である。

を、それが大きいところであろう。天災は忘れたころにやってくる。とよく言われる。でも関西では南海トラフ地震は今後30年に80%の確率で起こると言われている。常に天災は起こるものとしてそれぞれが意識することが被害を抑える重要な課題であろう。

今週のスケジュール

- 7日 米8月雇用統計(21:30)
- 8日 中国8月貿易収支
- 10日 4-6月期GDP改定値(8:50)
8月景気ウォッチャー調査
中国8月消費者物価、中国8月生産者物価(10:30)
- 11日 8月マネーストック(8:50)
7月第三次産業活動指数(13:30)
30年国債入札
独9月ZEW景況感指数(18:00)
- 12日 7-9月期法人企業景気予測調査(8:50)
米8月生産者物価指数(21:30)
- 13日 8月国内企業物価指数、7月機械受注(8:50)
8月都心オフィス空室率(11:00)
8月首都圏新規マンション発売(11:30)
5年国債入札
ECB定例理事会(ドラギ総裁会見)
米8月消費者物価(21:30)
米8月財政収支(14日3:00)
- 14日 メジャーSQ算出日
中国8月鉱工業生産、中国8月小売売上高、中国8月都市部固定資産投資(11:00)
中国8月小売売上高(21:30)
米8月鉱工業生産・設備稼働率(21:15)

ここ25年間で最大規模と言われた台風21号が威力を振るい、息つく暇もなく北海道では震度6強の大規模地震が発生。筆者も自宅の屋根瓦が飛ばされ、電話やインターネットが断線するなど、少なからず影響を受けた。ただ、公共インフラやサプライチェーンが受けたダメージは予想以上に、復旧への動きを見守りたいと、東京市場は買い手控えムードが広がっている。

ただ、TATERUの改ざん問題で連想売りを浴びた不動産関連株を含め、リバウンドのタイミングを計る局面と見るがどうだろうか。

編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的正確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。